

## 平成30年度 福井南特別支援学校 学校評価書

| 項目                           | 具体的取組  | 成果と課題  | 改善策・向上策   |
|------------------------------|--|--|---|
| 1-1<br>教育課程<br>学習指導<br>(小学部) | ・児童の実態を的確に把握し、児童の思いや実態に沿った授業づくりに取り組む。                                      | 児童の障害特性や発達段階、興味・関心を把握し、主体的に活動できる教材や場の設定、かかわり等の学習環境づくりについて教員間で話し合いを持ちながら取り組んだ。児童の実態や現在の発達状況など、機会を逃さずにきちんと保護者と話し合い、その時々の子どもの思いに即した目標や指導方法で細やかに対応できた成果であると思われる。   | 今後も児童の実態を的確に把握し、学部全体で共通理解を図りながら教材や指導内容、かかわり方を工夫して、児童が主体的に学ぶ力を伸ばしていきたい。児童の発達状況や思いに応じた目標、指導方法だけでなく、家庭や事業所での対応などもよく話し合い、必要に応じて相談支援専門員を活用して共通理解を広げていきたい。                                    |
|                              | ・授業研究会等で得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。  | 授業参観や学部の授業研究会を通していろいろな授業のやり方や教材を見たり、意見交換をしたりすることで、新しい視点や指導方法に気づき、授業を改善した。保護者懇談会を通して個別の教育支援計画や指導計画について、保護者と話し合いを深め、成長への共感を持ってもらえるよう努めた。また、日々の連絡帳や話し合い、授業公開等を通して児童の様子を丁寧に伝えることで、成長を感じてもらえたのだと思われる。                     | 今後も授業参観や授業研究会を通して、いろいろな授業を見たり、たくさん意見交換をしたりすることで、授業をより改善していける視点や指導方法を獲得していきたい。今後も日々の連絡帳や話し合い、授業公開等を通して、児童の成長している様子をより細やかに伝え、更に成長を実感できるようにしていきたい。   |
| 1-2<br>教育課程<br>学習指導<br>(中学部) | ・生徒の特性や実態を把握し、生徒の生活年齢や発達状況に沿った授業づくりに取り組む。                                  | 教員間で生徒の思いや実態について話し合い、生活年齢や発達状況を踏まえた目標や指導内容を考え、生徒一人一人の目標を意識しながら授業づくりに取り組んだ。保護者懇談会を通して個別の教育支援計画や個別の指導計画の目標や支援方法について、保護者と話し合いを深め、連絡帳や送迎時を利用して日々の様子を伝えて、保護者との意思疎通及び連携に努めた成果であると思われる。                                     | 今後も生徒一人一人の障害特性や実態を把握し、生活年齢や発達状況を意識しながら、授業担当者で指導目標や指導内容について十分に話し合いをし、授業づくりに取り組んでいきたい。今後も保護者懇談会などで、生徒の実態や身に付けさせたい力などについて保護者と十分に話し合い、目標設定や支援方法について共通理解を図っていきたい。                            |
|                              | ・授業研究会等で得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。  | 授業参観や学部の授業研究会を通して他課程での授業の様子を知ったり、意見交換を行ったりした。研究会で得た意見をもとに指導内容や学習環境等について自分の授業を振り返り、見直した。授業公開日には、多数の保護者に授業を参観していただいた。保護者懇談会で個別の指導計画等について保護者と話し合い、共通理解を持って指導したことで、生徒の学校での様子について理解を得られたと思われる。                            | 今後も学部全体で他課程での取組についても理解を深め、意見交換をして得られたことを自分の授業実践に生かして、個に合わせた自立に向けて指導をしていきたい。将来の姿を意識した指導目標や支援方法について保護者と共通理解を図り、保護者懇談会や連絡帳などを通して、生徒の成長している様子を保護者に丁寧に伝えていきたい。                               |
| 1-3<br>教育課程<br>学習指導<br>(高等部) | ・生徒の実態を把握し、ICT機器を活用しながら、分かりやすい授業づくりに取り組む。                                  | ICT機器を活用することは、保護者から概ね同意を得られる結果となった。視覚的に情報を得られること、自分で操作して学習を進められることなどから、昨年度と同様に、ほとんどの生徒が「ICT機器を使った授業が分かりやすかった。」と回答した。ここ数年、学習にICT機器を活用することが増えており、学習の場面だけでなく、生活の支援ツールの一つとして、ICT機器をさらに活用できるようになるとよい。                     | 今後も授業の中でICT機器を使った学習を進め、有効な事例を積み重ねていきたい。情報モラルについても学習の中に組み入れて進めていきたい。家庭でICT機器を活用している生徒もいるため、具体的な活用例についての情報を家庭からいただいて、学校でも取り入れていきたい。生徒一人一台のiPadが割り当てられたため、個々の学習内容に応じて必要なアプリケーションを導入していきたい。 |
|                              | ・授業研究会等で得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。  | 教科ごとに授業研究会を行い、教材教具の工夫や授業の進め方、生徒に応じた授業内容の設定などを話し合った。研究会で得られた意見をもとに、自分の授業を振り返って、見直した。保護者懇談会で生徒一人一人に必要な学習内容を検討し、進路相談会で将来の進路について共通理解を図った。クラスで自分の目標を考えたり、作業学習の初めに今日の目標を考えたりしたことで、多くの生徒が自分の目標を意識していることが確認できた。              | 今後も生徒一人一人の障害特性や実態に応じて工夫できることを学部内、教科内で共有し、授業参観や授業研究会を通して授業改善に努めたい。保護者懇談会だけでなく、必要に応じて本人・保護者・学校・関係機関で話し合いの機会を設定し、情報を共有していきたい。生徒が自分で目標を意識できるようにさらに工夫をし、目標に対して自分で評価する時間も大切にしていきたい。           |
| 1-4<br>生活の指導<br>(寄宿舎)        | ・寄宿舎生の特性や実態を把握し、基本的な生活習慣が身に付くよう環境作りや支援方法を工夫する。                             | 保護者や学級担任との連携を図って、寄宿舎生の特性や実態を把握し、環境作りや支援方法を工夫した。生活指導内容表の整理や検討を行ったことで、寄宿舎生の目標や支援方法を考える際、より活用する意識が高まった。保護者懇談会や送迎の際に支援方法について話をしたり、連絡帳を用いて寄宿舎生の変化や様子を細かく伝えたりした。「不明な点があればお聞きください」など、保護者が質問しやすい配慮をしたことで、目標指数の達成につながったと思われる。 | 研修や話し合いの場を充実させ、今まで以上に寄宿舎生一人一人に合わせた支援や環境作りを行ってきたい。支援方法をより具体的に、寄宿舎生の目標設定がしやすいように今後も生活指導内容表の改善を行ってきたい。保護者に目標や支援方法を伝えるときは、寄宿舎での様子を細かく伝えるだけでなく、支援に用いているグッズを提示することで、保護者がさらに理解しやすいように配慮していきたい。 |
| 2<br>組織運営<br>(校務分掌)          | ・情報管理・不審者対応も含めた危機管理体制を整備するとともに、個々の役割について理解を深める。                            | 学校防災アドバイザーによる教職員研修を実施し、災害時の対応について教職員の危機管理意識を高めることができた。様々な状況を想定した避難訓練を実施を通して、危機管理マニュアルを見直しを行った成果であると思われる。   | 次年度についても、専門家の助言を受けながら本校に合わせた危機管理体制の整備に努めていきたい。  |
|                              | ・保護者に学校の取組を周知するとともに、災害時引き渡し訓練を通じ、災害時の対応について理解啓発を図る。                        | 「防災だより」13～16号の発行や学校ホームページへの掲載による情報提供を行った。災害時の対応について、児童生徒の安全を第一に危機管理マニュアルの見直しを進めている。これらの取組により目標指数を達成できたと思われる。   | 災害引き渡し訓練をはじめとする取組が、保護者の防災意識の向上及び連携の強化につながるように、工夫を重ねていきたい。災害伝言ダイヤルの活用など災害時に役立つ情報提供の充実を図るために、今後も「防災だより」等により、保護者への啓発に努めていきたい。  |
| 3<br>組織運営<br>(学校管理)          | ・地域の小中学校、高等学校、企業等との交流活動に取り組む。(交流活動＝居住地校交流、学校間交流、地域企業との交流、校外学習における地域での交流など) | 今年度は国民体育大会・全国障害者スポーツ大会が本県で開催され、全県的な交流が図られたことにより、行事縮小等のため学校独自で行う交流は限られた。その中で、居住地校交流では、交流を希望する全ての児童生徒が地域の学校と交流を行った。学校間交流では、相手校と連携を図ることで双方の児童生徒のかかわる場面が多く見られる交流となった。これらの取組により目標指数を達成できたと思われる。                           | 本校の児童生徒がそれぞれの地域の中で生活していくために、共生社会の形成を推進する必要がある。今後も積極的に地域との交流活動を行ってきたい。交流活動は児童生徒の経験を広め、社会性を養い、豊かな人間性を育てる上で、大きな意義を有している。これからも、保護者の理解を得ながら取り組んでいきたい。  |

## 平成30年度 福井南特別支援学校 学校関係者評価書

### (問)

- (1) 学校評価の目標に対する成果(達成度)や結果の分析は適切か。  
特に、①ICT機器の活用、②交流促進(共生社会に向けて) について  
(2) その他(学校運営全般に関する御意見など)

### (意見を聞いた方)

学校関係者評価委員：保護者代表5名、同窓会保護者代表1名、事業所代表1名

### (意見)

#### (1) 目標に対する成果および結果の分析について

##### ①ICT機器の活用について

- ・ICT機器について高等部で目標を立てているが、使用の仕方だけを教えているのか。ネット被害に遭わないなども大切になってくるため、情報モラルなども併せて指導して行ってほしい。
- ・子どもは、会話の中では詰まって言葉が出てこないこともあるが、スマートフォンで文書を打つときは、長い文章を作れることに気が付いた。就労先では、通所者同士のLINEを禁止している。親同士がつながっている場合には、問題が起きても親が介入できるため、許可している話を聞いた。子どもに任せるのではなく、親も責任を持つことが大事だと思う。
- ・プログラミング教育は、論理的思考をしながら作成していく過程が大事。何を目的に取り組んでいるのか、保護者に伝えるだけでなく、保護者も一緒に学べる機会があるとよい。

##### ②交流促進(共生社会に向けて)について

- ・販売会は、県庁だけでなく市役所などいろいろな場所でやっているとよい。地域の小学校では、育友会の活動として販売活動を行っており、地域住民に知ってもらおうきっかけになった。
- ・文化祭を見て、高等部の作る製品が技術的に高いと思った。物を売るときには、パッケージなどでいかに目を引くかを考えたり、いろいろな班のコラボ商品を作ったりしてはどうか。駐車場の兼ね合いで難しいと思うが、もっと高等部の製品を知ってもらうために発信して行けるとよい。
- ・福井県障害者ハートフル文化祭や他校の販売会など、もっと積極的に知ってもらう手立てを講じてほしい。県を巻き込んで、他の特別支援学校と合同でやってはどうか。
- ・共生社会を形成していくために、どう発信していくかが重要になってくる。日頃から障害者と接点がない方たちをどう巻き込むのか、行政と連携をして行けるとよい。

#### (2) その他(学校運営全般)について

- ・中学部の授業で自転車の練習をする際、ヘルメットを被るように指導してほしい。他の県では、自転車に乗るときにヘルメット着用義務など条例化する流れであり、徐々に意識を高めて行ってほしい。
- ・今回の結果を見て、評価が甘いと感じた。全項目で目標指数を達成しているが、「B: だいたいできた。」と回答した人の何人が本音を語っているのかなと思う。もう少し掘り下げてもいいのではないか。危機管理の項目で、教職員が「C: あまりできなかった。」を4名ほど回答している。危機管理については、全員が意識して取り組んでほしい。

### (学校関係者評価を踏まえた今後について)

- ・iPadの活用方法だけでなく、モラル教育の充実に努めたい。
- ・自転車利用の際には、安全意識を高める指導に取り組んでいきたい。
- ・アンケート考察の際、目標指数の達成・不達成のみに注目せず、回答した項目それぞれについて細かく分析していきたい。
- ・共生社会に向けて、交流活動を今後も積極的に行っていく。地域住民に知ってもらうために、販売や体験などを工夫していきたい。
- ・学校評価における取組の中で表面化してきた課題を、教職員と保護者との間で広く共有し、学校の取組の改善を目指して、次年度のスクールプランを検討していきたい。